

## 平成30年度第3回阪南市子ども読書活動推進会議

開催日時	平成30年9月20日（木） 午後2時
閉会日時	平成30年9月20日（木） 午後3時15分
会議場所	阪南市立図書館 視聴覚室
出席委員	委員長 森本 典子（阪南市子ども文庫連絡会）
	副委員長 石原 慎（生涯学習部学校教育課）
	委員 橋本 一郎（市民公募）
	委員 東堂 美幸（子どもNPOはらっぱ）
	委員 谷本 美由貴（阪南市みんなの図書館を考える会）
	委員 福井 貴子（泉鳥取高等学校）
	委員 嶋田 由香理（尾崎小学校）
	委員 宮元 早苗（まい幼稚園）
	委員 南 智珠子（尾崎保育所）
	委員 宍道 恵子（子育て総合支援センター）
	委員 藪内 かおり（健康部健康増進課）
	委員 井上 真理（生涯学習部生涯学習推進室）
	委員 加藤 靖子（生涯学習部図書館）
	欠席委員
委員 大塚 尚子（はんなん子育てネットワーク）	
委員 佐藤 萌香（阪南市社会福祉協議会）	
委員 下林 奈央（飯の峯中学校）	
委員 油谷 優公（こども未来部こども家庭課）	
事務局出席者	図書館主幹 森下 喜代子
	図書館総括主事 中山 直子

図書館長委員挨拶

案件1 第三次計画の構成について

- 委員長 第二次計画までは「幼稚園」と「保育所（園）」に分けており、認定こども園は保育所に含んで記載していた。今回第三次計画を作成するにあたり、A委員から、すべてまとめるほうがよいのではないか、との意見が出た。（資料1参照）。メリット・デメリットはそれぞれある。国の流れも縦割りはやめる方向にあると聞く。計画の中の表記だけなら事務局がまとめられるが、代表委員はどうするのか。全ての施設を代表できる委員はいるのか、委員の皆さんの意見をお伺いしたい。
- B委員 認定こども園の参加は必要だと思う。幼保連携型子ども園を保育所側に入れてしまつてよいのかどうか疑問に感じていた。
- C委員 阪南市には公立のこども園がない。私立のこども園の職員も、会議に参加してほしい。  
こども園の状況を、自分たちがわからないままには書けない。いままでどおり、分けた方が書きやすいのではないか。
- D委員 同年代の子どもを同じ項目にひとまとめにすれば、成果や課題は一目瞭然とも言える。項目の中で幼稚園・保育所・こども園を分けるかたちにすれば、うまくまとまらないか。それぞれの施設の職員の正しい職名は何というのか。
- B委員 幼稚園は幼稚園教諭、保育所は保育士。
- E委員 阪南市としての今後の方向性は、どうなっているのか。
- F委員 今検討されている。
- E委員 このままの状態が継続されるのであれば、3つに分けたままの方がよいと思うが。
- F委員 近々に1本になるというものではない。しばらくはこのまま。
- G委員 三次計画が終わるころまでに変わるとは思えない。三次のうち3つに分けたままでいいのではないか。
- H委員 建物自体はどうなるのか。ひとつにまとめるつもりなのか。
- G委員 今は公立幼稚園がいくつかあり、公立保育所がいくつかあり、民間のこども園がある。
- I委員 そのカテゴリーもわかるが、現在私立の園所は委員として会議に入っていない。分けたところで話し合いに参加してもらえないのであれば、今のままでもよいのではないか。
- D委員 一次計画では公立施設の意見しか聞けなかった。二次計画作成時には、会議には参加してもらえなかったが、文書でやりとりをして私立の意見も取り入れた。現在はA委員に間接的にはあるが、意見を吸い上げてもらっている。  
未就学児を養育する施設としては、一つの項目にまとめられると考えられる。  
第三次計画でこども園を独立させるのであれば、5-1、5-2、5-3と分ける方法も考えられるのではないか。
- H委員 こども園は、子読推の会議には元々参加していないのか。
- D委員 参加していない。
- H委員 図書館から働きかけはしないのか。
- D委員 こども家庭課は業務の中でやりとりがあるので、そちらにお願いしている。

F 委員 同一のグループを作り、分けて書けばすっきりするのではないかな。  
保育所と認定こども園が同じというパターンは考えにくい。

I 委員 名前は認定こども園となっても、預かりの形態としてはほぼ保育園である。

E 委員 うちの孫の通う保育所もこども園に変わったが、内容は今までとあまり変わっていない。

J 委員 認定こども園は私立なので、それぞれのポリシーをもって経営しているので、公立保育所や幼稚園とはひとまとめにできないのではないかな。

D 委員 分けておいた方が、施設の数が増えたときも、文章を書きやすいのではないかな。

I 委員 認定こども園については、意見がもらえなくて、現在検討中等になるのかな。

事務局 現在も、A委員を通じて意見をいただいているのでその心配はないと思う。

委員長 幼稚園・保育所・認定こども園の記載は、分けた方がよいという声が多いので、グループとしてはまとめるが、その中では分けるかたちとする。

委員長 次に、複数の施設（主に学校）がある場合の表現はどうすればよいか。

事務局 一部の施設で行った取組について、実名を出す方がいいのかなどうか、ご意見をいただきたい。実名を出す方が励みになるのではないかな。

K 委員 素案を見た限りでは、実名がなくても、違和感はなかった。

B 委員 共通と各所に分かれていたので、共通事例と個別事例だと納得して読んだ。

C 委員 園の実情に合わせた課題があるので、共通と個別がわかって伝わればそれでよい。

事務局 では具体的な表記はやめておく。（実名は出さない）  
共通と個別を分けて書いているが、分けない方がよいという意見があった。  
成果と課題も分けた方がよいという意見もあったが、いかがかな。

D 委員 共通・個別は、幼稚園・保育所の意見からも分けた方がわかりやすい。

J 委員 成果と課題も分けた方がよいという意見もあったが。

G 委員 成果と課題は、別々には書きにくい。

J 委員 成果と課題は不可分の場合もあり、分けるとわかりにくくなると思う。項目も増えてしまう。

F 委員 記載方法はある程度そろっているのでは、このままでよいのではないかな。

委員長 では、現行のたたき台どおりとする。

F 委員 表記を揃えれば良いと思う。

委員長 次に、二次計画で達成できなかった項目について。

事務局 達成できなかったことにはあえて触れていない。予算的なことは変えようがないのだから、触れない方がよいのかな。

事務局 泉鳥取高校での和大学生の交流については、もう行われていないようだが、触れたほうがよいか。

H 委員 それで、今週から1名、大学生が来ている。図書室で勉強を教えてもらおうほか、間口が広がっていている。

事務局 読書活動という形での協力ではないのではないか。

H委員 そうでもない。放課後はいろいろな場所に来てもらっている。  
今、本校は英語に力を入れているので、それも読書活動に取り入れたいと思っている。

委員長 専任で司書がいるからできることである。子どもたちは情報を得られるし、本も読める。できることもたくさんある。外部の人に入ってもらいやすい。校長が図書館に理解がある。入ってきた人を無駄にしない。外ともっともっと交流したいという雰囲気がある。

委員長 泉鳥取高校では、地域（E委員）との交流もあると聞いている。

H委員 着任したての頃はやりたいことが何もできなかったが、今はいろいろできてきて、やりやすくなった。

事務局 予算的な課題について計画に入れ込むことはできなかった。

L委員 予算は難しい。

J委員 理想として掲げるべきものは、達成できなくても入れるべきではないか。

事務局 そのスタンスで、調整する。

委員長 次に、巻末資料について。  
平成29年度全国学力・学習状況調査結果より、子どもの読書活動に関係する項目を抜粋した。（資料2）過不足がないか委員の皆様を確認いただきたい。

J委員 2番と4番の表は見開きの方が見やすい。

事務局 調整する。

事務局 表紙は、図書館ボランティアの方に依頼し、このようにできあがっている。

**案件2 今後のスケジュールについて**

事務局 今後のスケジュールについて。（資料3）  
本日ご意見いただいたことを中心にこの素案を修正し、再度たたき台を送付するので、最終チェックのつもりでご一読いただきたい。さらなる追加は可能。  
大幅な修正がなければ11月1日（第4回）の会議は開催しない可能性がある。  
完成した素案は、11月8日の図書館協議会に報告し、協議会からも意見をいただく。その後、決裁を経て、1月にパブリックコメントを実施し、コメントに対する意見をまとめたうえで、委員の皆様へ報告し、第5回の会議となる。

事務連絡 第4回会議は、11月1日、案件は素案の最終修正についてを予定している。それまでに委員それぞれとのやりとりとなる。前回同様、メールやイントラネットの標題に、お互い「子読推」と入れてやりとりしたい。

委員長 意見・質問はないか。  
ないようなので、これで終わる。